

じやりみち

……仮設支援情報……



第8号 発行日 1995. 12. 7

阪神大震災地元NGO救援連絡会議

仮設住宅支援連絡会

TEL: 078-362-5951 / FAX: 078-362-5957

E-mail: ngoteam@mb.osaka.infoweb.or.jp

口座番号: 01180-6-68556 (郵便振替)

忘年会のお知らせ 1年の振り返りも含めてお疲れさん会をしませんか?
全体会のあと19:00~21:00まで「まるずや」にて。

次回全体会は・・・ 全体会のお知らせ

日時: 12月13日(水) 17:00~18:30

場所: 毎日新聞神戸ビル3F第1ホール(NGO連絡会議の隣の部屋)です。

学習会の報告

第二回寺小屋は、JOCSの大川さんを講師に招き、前回に引き続き「自立支援」をテーマに行われました。

連絡会では支援活動においてテーマになっている「自立支援」を一緒に考えてゆこうと、2回の学習会を開催しました。

これについて大川さんは『自立支援を考える前に、先ず自分自身が自立しているか考える必要がある。日本は歴史的に見て自立しにくい精神風土にあった。』と語り、なぜ自立しにくいのかということの根底にある、日本人の民族性からの問題提起がありました。なるほど私たちは「個」ということを日常の生活で意識する場面は少ないかもしれません。個という認識なしに、自立ということを考えようとするこ

と自体に難しさがあるようです。
また台湾での自立支援の例と現在活動している西区の仮設住宅での例を盛り込み、私たちがぶつかっている「自治会との関係のあり方」についても多くのヒントを与えてくれました。

その中から一つ、『一生懸命やっても文句を言われるのが自治会。虚しさの中で活動している。その虚しさに戦ってゆくには意義付けをしていかなければならない。それが私たちが一緒にやってゆくことの意味だと思います。ときに私たちが住民に代わって感謝をすることも必要』と。

こういう言葉を発するためには、私たち自身に余裕がなければなりません。走りに走ってきたボランティア活動。たまにはゆっくりと骨を休めることも大切なかもしれません。

全体会の報告

前回の全体会では、学習会での大川さんの示唆に富むお話を受けて、年末年始や自治会との関係について闊達な意見交換がなされました。

また11月20日に被災者復興支援会議との意見交換会が行われ、次のことに対して年内に回答をと強く要望しました。

- ①.仮設住宅入居期限(2年)の延長 ②.55歳~65歳の中高年に対する要援護対策(仮設住宅での死亡者の半数は65歳以下) ③.冬対策として暖房費の補助 ④.NGOレベルでのボランティアセンターという拠点の確保 ⑤.その他。

それに続いて、予想以上にひとりで正月を過ごす人が多いことがわかり、その対応の検討がされました。

【市民とNGOの「防災」

国際フォーラム】

現在の仮設住宅の問題点と課題を話し合います。

12月9日 14:00~16:00

神戸国際会議場 502にて

「市民と防災フォーラム・パートII」

★1月17日の追悼に向けて千羽鶴を折っていますが、6千余名の犠牲者の数を集めたいので、ご協力お願いします!

(問い合わせ: ゆいまある神戸 石井)

TEL/FAX 078-791-4829(17:00以降)

★ホテルで使用したカラーテレビ14台(チェック済み)があります。

問い合わせ: アセック(アジア・アフリカ環境協力センター) 大西・瓜谷

TEL 078-392-3986

★送り迎えのボランティア募集中。

阪急御影の立市本山園に通いたいのですが、ひとりでは行くことができないそうです。せめて一週間だけでも通うためにボランティアを募集しています。希望は水曜日です。(大阪淀川十八条仮設の住民の方より。)

問い合わせ: 事務局山田まで。

お願い

全体会の13日までに年末年始の予定をご連絡下さい。

< 仮設は今... >

兵庫区編

11月7日、兵庫区菊水公園の中にある菊水仮設のふれあいセンターが開所しました。当初は9月の半ばに完成する予定だったので、住民の方にとっては「やっとできた」という気持ちが強かったのではないのでしょうか。

菊水の仮設は第1次・104戸の仮設住宅で、多くの高齢者や障害を持つ方たちが入居されました。独居の方もかなり多く、SVAでは3月の終わりから訪問活動を始めとする様々な支援を行ってきました。

その中の1つがお茶会です。初めは1人1人だった住民の方も、時が経つと共に顔なじみになり、会話が始まり、少しずつではありますがコミュニケーションの芽が生まれてきました。その中で、「みんなで集まる場所が欲しい」という声があがってきました。そこでみんなが集まってお話のできる場として「お茶会」を6月19日に開いてみました。その後、夏の強い日差しや「蚊」の攻撃にも負けずに、集いの場を作り続けてきました。

そして、やっとふれあいセンターが開所しました。ボランティアが「場」を作らなくても、そこは常にある集会所です。今後も、週1度の「お茶会」は続けて行う予定ですが、これからは住民の方自身が動いて創っていくことが大事であると思います。

ふれあいセンターをいかに楽しい場にするか、どうしたらみんなが気楽に集える場にできるか、住民の方と共に考え、その支援ができたかと思っています。

♪♪♪全国キャラバン実施日程♪♪♪

(1995年12月6日現在)

12/10 静岡県ボランティア協会

講師：市川 斉

(SVA/仮設支援連絡会事務局)

12/16 横浜市立大学

講師：村井雅清

(ちびくろ救援ぐるうぷ代表/
仮設住宅支援連絡会代表)

1996年

1/14 東京ボランティアセンター

講師：同上

1/15 世田谷区社会福祉協議会

講師：同上

全ての会場でガレキで造ったオブジェを展示します。

震災から随分と時間が経った今、仮設住宅に住んでいる人達はどんなことを思っているのでしょうか。私たちボランティアは、被災された方々の気持ちに常に耳を傾けることを忘れてはなりません。

仮設住宅に暮らす方が同じ境遇にある人達の相次ぐ孤独死に胸を痛め、心境を綴ってくれました。

孤独死

何という寂しい響きを持つ言葉だろう。特に私のような年代のものには、ずきんと胸に突き刺さる。震災後、急に多く使われ始めた言葉。

あの朝、住む家を失い、連れ合いを、家族を亡くし、向こう三軒両隣の顔馴染みとも別れ別れになって、一人で仮設住宅での暮らしを余儀なくされた高齢者が、心細さと追憶の中で、誰に看取られることもなくひっそりと命の灯を消していった人達が多い。

長年頑張って自分たちの城を築き、「さあこれから夫婦寄り添って幸せな老後を」と思った矢先、一瞬にして全てを失ったのだ。無理もない、と涙を禁じ得ない。だが、人間生き延びるには何といたって気力が必要だ。特に逆境に立たされたとき、肝心の気力がなければ、生きる希望さえ失いかねない。

生き残られた方はどうか。今こそ気力を奮いたたせ頑張って生き抜いて頂きたいと心から願わずにはいられない今日この頃です。

神戸市西区室谷第2仮設住宅、溝口

じやりの一口めも



ハーブのお風呂(その2)・足浴

身体が冷える、疲れがひどくて眠れない、お風呂に入れないと言つ方に。

お風呂に入るよりも効果がある?と言われる足浴。我慢できる熱さのお湯にハーブの精油(エッセンシャルオイル)を全身浴より多め(4~5滴)に溶かし、ゆつくり(10~15分)足を浸します。お湯がぬるいと効果は激減するので注意。手浴と同時にやるとよりいっとう効果的!

またお塩(天然の)でもできます。土踏まずを塩でしつかりマッサージをしてください。足は心臓、諸器官や脳の機能にも影響するので、老化防止や痴呆の防止にもなるそうです。一度試してみてください。(注:エッセンシャルオイルは直接肌につけてはいけません!)